

中医学の皮膚の生理

1 皮膚に対する中医学の生理観

中医皮膚科学は中医学の整体観と弁証論治に基づく治療学である。

健康的な皮膚

- 皮膚は内臓の鏡である。内臓の活動によって気血津液が作られ、皮膚の正常な生理機能を支える（図2）。
- 健康的な皮膚には、潤い・艶・なめらかさ・張り・弾力・血色がある。
- 陰陽バランスが正常であることは皮膚の代謝を支える基本原則である。
- 皮膚への栄養となる物質的な基礎は気血津液である。
- 経絡・血脈・三焦の通暢は健康的な皮膚の条件である。

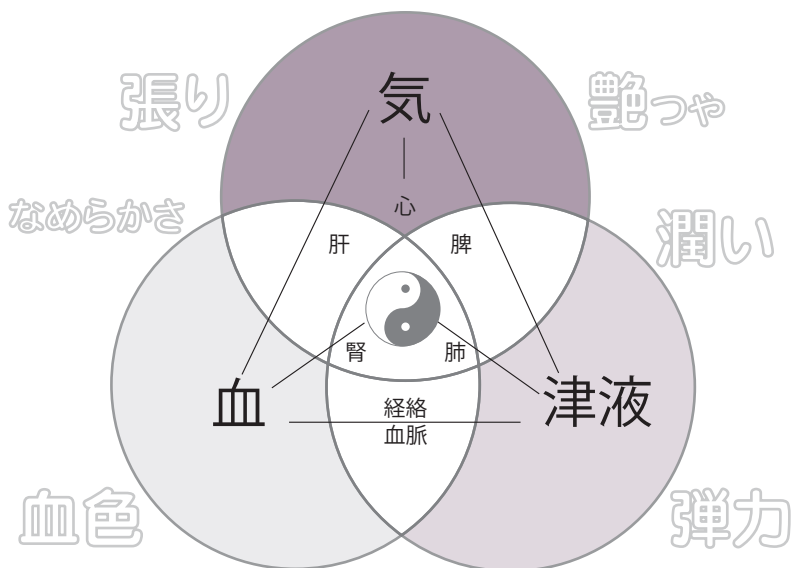


図2 陰陽・五臓・気血津液モデル

中医学からみた皮膚の働き

- 腠理^{そうり}は皮膚の表皮から真皮までの機能を含むと考えられる。皮下には経絡・絡脈があり、三焦につながっている。皮膚と筋肉の間に気血津液を巡らせ、バリアー機能を果たす。
- 玄府は汗孔のことを指し、皮膚の排泄の機能を果たし、体温を調節する。外邪の侵入経路になることがある。
- 衛気は体内のバランスを守り、邪気の侵入を防ぐ（衛外の働き）。
- 気化（気の運動・変化・代謝）によって皮膚の健全性を保ち、汗孔の開閉をコントロールする。
- 皮膚刺激を知覚する。
- 分泌・吸収・排泄の機能をもつ。

2 気血津液と皮膚

- 気血津液は皮膚のもととなる栄養物質である。
- 気には推动作用・温煦作用・防衛作用・固摂作用・気化作用があり、皮膚の新陳代謝のためのエネルギーである。気は皮膚を温煦し、皮膚の再生能力・バリアー機能とターンオーバーの恒常性を保ち、皮膚に艶・弾力・張りを与える。気の巡りが悪くなれば気滞証になり、気の働きが低下すれば気虚になる（図3）。
- 血には栄養作用・滋潤作用があり、精神活動の物質的なもとにもなっている。血は全身を巡り、微小循環を通して、皮膚に栄養を与える。また皮膚感覚を維持し、老廃物を排泄する。皮膚の血色・弾力・艶に寄与する。毛髪^{もうはつ}の太さ・艶、爪の色・光沢・硬さを保つ。血が汚れたり血流が悪くなったりすれば、瘀血になる。血の生成不足があれば、血虚になる。
- 津液は栄養分をたっぷり含む体液のことで、血のもととなる物質の1つでもある。保湿の成分が皮膚の潤い・艶・張り・なめらかさを保持する。組織の形を維持し、代謝環境を保つ作用がある。津液が足りないと陰虚になり、津液の代謝が悪くなって体内に溜まると痰湿や水飲になる。

3 五臓と皮膚

- 「皮膚は内臓の鏡」といわれるように、内臓の変化は皮膚の状態を左右する（表1）。
- 心の機能が正常であれば、血脈の巡りが順調となり、精神が安定して、皮膚への栄養も豊かで、血色・艶がよくなる。
- 気を主る肺の機能が強くなるほど、皮膚のバリアー機能が丈夫になり、毛の艶が出る。さらに肺の宣発と粛降の機能によって、津液を全身に巡らせて皮膚の保湿機能も支えている。弾力も維持される。
- 心と肺の機能を正常に保つことで、気血の機能の健全性を保つことが可能になる。『黄帝内経』

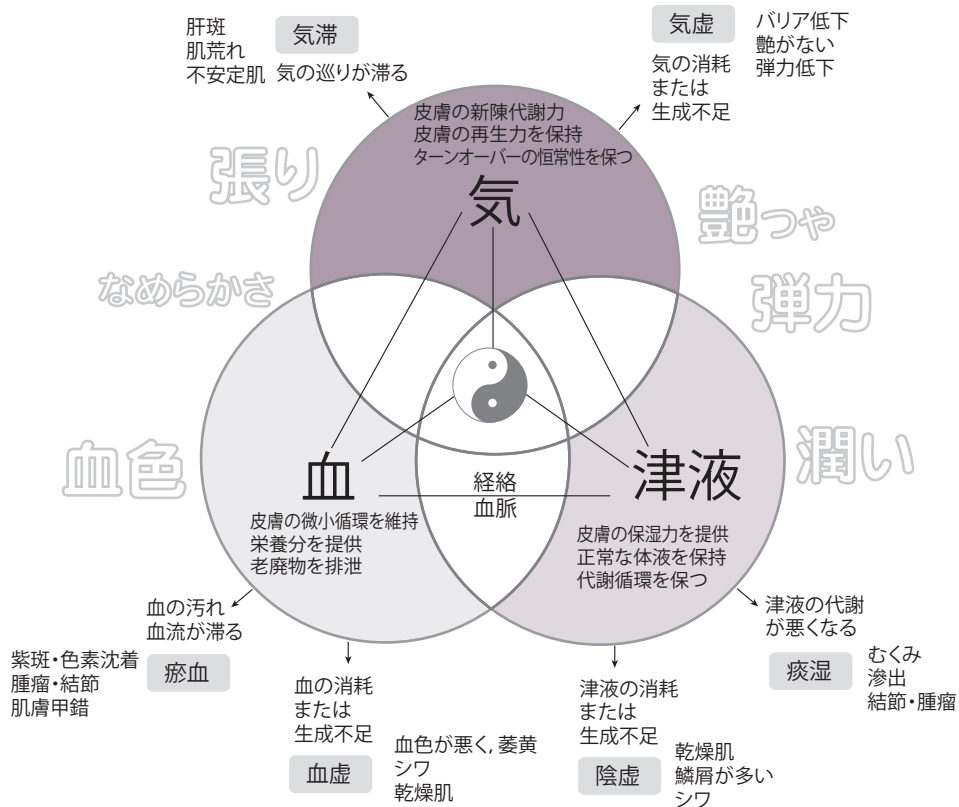


図3 皮膚の気血津液代謝と生理・病理モデル

には「気と血が調和すれば、美色になる」と記載されている。

- 脾胃は後天の本で、昇降出入の中枢作用も担っている。運化機能によって気血津液が作られ、全身を養い、筋肉を主る。気を主る肺の機能と調和しながら、皮膚のバリアー機能と保湿機能を高め、皮膚の潤い・なめらかさ・張りを保持する。
- 肝の疏泄機能と蔵血機能は気血の調和に密接な関連がある。肝気が正常に疏泄すると、気機の昇降出入が正常に行われ、各内臓の機能活動がうまく調和する。それによって腠理への気血津液の循環がよくなり、皮膚のバリアー機能が正常に維持される。
- 腎は生長と老化に深くかかわっていることはよく知られている。特に男女の八七周期理論は中医学の老化理論に大きな影響を与えた（男性は8年、女性は7年周期）。その内容として、皮膚・皮毛の変化についても詳細に記載されている。

表 1 五臓の基本的な生理機能

臓腑	特徴	臓腑	特徴
心	・ 血脈を主る。 ・ 華は顔にある。 ・ 神志を主る。 ・ 心は舌に開竅する。 ・ 汗は心の液。 ・ 心は小腸と表裏になる。	肝	・ 肝は血を貯蔵。 ・ 疏泄を主る。 ・ 蔵血を主る。 ・ 体は筋に合。 ・ 華は爪にある。 ・ 目に開竅する。 ・ 怒は肝の志。 ・ 涙は肝の液。
肺	・ 気を主り，呼吸を主る。 ・ 宣発と肅降を主る。 ・ 通調水道の作用。 ・ 皮毛を主る。 ・ 華は毛にある。 ・ 憂は肺の志。 ・ 涕は肺の液。 ・ 鼻に開竅する。 ・ 大腸と表裏になる。	腎	・ 腎は先天の本。 ・ 蔵精を主り，生長 ・ 發育・生殖を主る。 ・ 水を主る。 ・ 納気を主る。 ・ 恐は腎の志。 ・ 体は骨に合し，骨を主り髓を生じ， ・ 華は髪にある。 ・ 耳および前後二陰に開竅する。
脾胃	・ 脾胃は後天の本。 ・ 運化を主る。 ・ 昇清を主る。 ・ 統血を主る。 ・ 筋肉に合し四肢を主る。 ・ 口に開竅。 ・ 華は唇にある。 ・ 思は脾の志。 ・ 涎は脾の液。		